

明治二十七年・八年・日清戦争軍隊送迎記録より

福江尋常小学校の明治二十七年年度の記録によると、
八月二十九日、

軍隊送迎、歩兵第七連隊、西街道通過につき、一同福嶋村字福嶋まで出迎えたり。

七月八日

歩兵第七連隊、第二大隊凱旋、二学年以上の生徒、吉田小学校前の官道で歓迎す。

七月九日

第二大隊凱旋、八日と同じ

七月十一日

本村予備帰還兵歓迎、手取川橋詰にて

七月十四日、七月十六日には、吉田小学校前にて

十二月二十六日、後備兵第六連隊凱旋歓迎、長田小宮街道

の記事が残されているが、明治二十七年の戦争の開戦前には金沢から敦賀港まで冬服を着た兵隊が、夏の盛りに行軍し日射病で何人かの兵隊が死亡した、という。

このような事件があつて、当時の世相は、「日露戦争」を予測せざるを得ない情勢であつたので「北陸線」の鉄道敷設が喫緊の政治的課題であつた。この時代から、福島の情勢が鉄道敷設と、通路が問題になつた。



文明開化が旗印の警察は裸の取り締まりを強化



燐寸（マツチ）巻煙草の渡来新聞の発行（読売新聞）